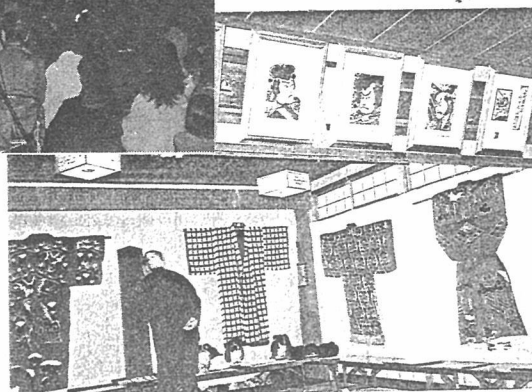
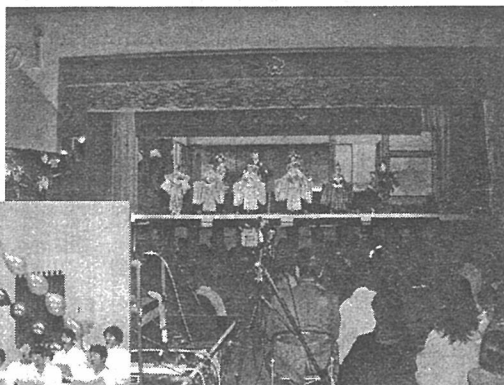


公民館だより ひがしの

No. 75

2002. 12.

人口 1,838 人
(男) 896 人
(女) 942 人
世帯数 543 戸
(H14.11.1 現在)



今期（秋季）いろいろな行事が行われました。

まず、10月27日は小学校屋体で「歌舞伎公演」。11月3日は同会場で「ふるさと音楽祭」。

11月3～4日は公民館での、展示物を主とした「文化祭」。

（10月20日予定された住民運動会は雨天中止）

この3つの催しに参加された方は延数で地域人口に匹敵すると思われます。まさにキャッチフレーズのごとく“いきいき東野行ってみようふれあいの場”となりました。交流とさまざまな再発見…

これらの催しには他地域の人々の顔も見られ、「いい催しだ… 来年は？…」など励ましと期待の言葉もいただいた。

ここに至るまでには、小学校からは連日練習の歌声が聞こえ、心晴歌の皆さんは、水野先生のアコーディオンに合わせ「東野賛歌」が…。夜は体育館で歌舞伎に力が入ります。

歌舞伎保存会、文化祭実行委員会では連日の打ち合わせ会議。

本番——歌舞伎の大見得には盛んな拍手とおひねりの山。

音楽祭では小学生は元気良く、心晴歌のグループも見事な合唱で大拍手でした。

文化祭展示会場では、見事な作品展示とともに、美濃の地歌舞伎を支えられている伊藤家の貴重な歌舞伎衣裳を借り受け展示することが出来、好評でした。

3日間「虹の会」「ショウブ・アヤメ会」「栄養教室」の皆さんには日にちを分けて延べ350人分の食事を支援していただきました。

まさに「駕籠に乗る人担ぐ人そのまた草鞋をつくる人」。地域が燃えた秋でした。

交通事故をなくそう！

恵那地区交通安全協会 東野支部長 足立 智胤

「ピーポー ピーポー」と救急車の発する音、「交通事故やろうか？」誰もが心配そうな顔つきに変わってゆく。このところ当東野においても「死亡事故」が相継ぎ尊い命が奪われてしまいました。隣の人が…、あんなに親しくしていた人が…、ついさっきまで笑顔で話をしていたのに…。悔やんでも悔やみきれない交通事故！交通安全協会では、市当局、恵那警察署とタイアップし、地域の皆様方の協力を得て、春と秋は、全国交通安全運動、夏と冬は交通安全県民運動として年四回の「交通事故防止活動」を行っています。東野においては、中切の信号付き四差路にて各運動期間の初日のみであります。街頭指導を午前7時三十分より行っています。「交通事故をなくそう」との願いを込めて行っております。

最近、東野で交通量がものすごく多くなった道路があります。皆様ご承知だと思えますが、白坂農道と中津川工業団地に通ずる道路が、完成したからです。白坂農道については、始まりの両端に小さい看板ですが立ててあります。又白線にて事故防止の対策がしてある様子です。しかし大門より駅前道路に通ずる道路はまだなにもしていないので今後、交通安全協会はもとより、振興会やその他関係団体との連携をとり、交通事故防止の対策を考えていかねばならないと思っております。

交通事故は、自分だけではなく相手の行動も視野に入れて運転しなければならぬと思えます。今、一番多く危ない行動とは何だと思えますか？私は、見るたびに「大丈夫かな」と気がかりで仕方ない行為、携帯電話をしながらの運転だと思えます。近頃そうした運転者が増えた感じがしますが、運転者のマナーとして自粛したいものです。そして、交通事故が少しでも少なくなるように皆で頑張りましょう。

最後になりましたが、事故で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

地域と子どもたち

青少年育成推進員 篠原 正幸

皆さんは、自分の子供の頃と今の子どもとの状況を比べたとき、何が一番大きく違っていると思えますか？私は、家庭の中でも地域の中でも子どもの『存在場所』が無くなってしまう点だと思えます。言い換えれば、子どもの『担うべき役割』が家庭や地域の中で無くなってしまうのではないのか、という事です。

私達の子供の頃は、生活の面でも農作業の面でもあまり機械化されておらず、子どもにもそれなりの仕事があり、役割がありました。親や地域の大人たちとの関りあいも沢山ありました。そしてその中で、大人たちが主役で自分達子供は我慢しなければならぬことを悟ったり、地域の約束事やしきたりなどを知らないうちに学んだりしました。でも今、子どもたちはそうした体験をしているのでしょうか。そして、それは必要の無いことなのではないでしょうか。

青少年育成推進員の間では、青少年の健全育成とは何か、何をすべきかを原点に返って検討しています。毎年同じことの繰り返し消化型事業展開で本当にいいのだろうか、子どもたちに必要なことは何なのだろうか。

そして、『地域の力』を活用することが必要だということを、答の一つとして導き出しました。子どもは、家庭や学校で勉強だけをしていればよいというものではありません。他人との関りあいの中で、優しさや思いやりの心を育んでいくものだと思えます。また、責任感や社会への貢献という事もそうした中から生まれてくるものだと思えます。そしてそれは、子どもたちが地域の中に入り、地域の一員としての役割を担ってこそ達成できるものではないでしょうか。そのためには、まず地域の皆さんの力により、子どもたちを地域の行事などに連れ出して、大人達とふれあう機会を少しでも多くもたせてほしいのです。「地域のおじさん・おばさん」として、子どもを地域の中へ引っぱり込んで頂きたいのです。

子どもたちがこの東野という地域の中で、地域の皆さんとの関りあいを少しでも多くもつていくことで、優しさと思いやりと生きるたくましさを持った大人に育つよう、お力添えをお願い致します。

「娘役」感謝記

東雲会 土方 和子

歌舞伎のことなど何も知らない素人の私に歌舞伎の舞台など出来ないと思ひ込んで居りました。ところが、今回歌舞伎に出る事になり、そこで大困り。役は「お舟」とか。舟なら船頭か、足が悪いから男の児がいいのかな。と言うと、お舟と言う名の娘さんだとの事。出来るのかな。心配で心配で心配でした。

友達に芝居の先輩がおり、台詞調など習いにきました。

又、近所の奥さんは和讃に出掛け私（和子）の台詞を真似したら大笑いだったそうです。

習うのも正味二時間。並び順とほんの少しの動作だけ。自分で台詞を書く。先生は寒いのに顔に汗を浮かべ真剣に教えて下さる。皆素人ばかり。習う方も一生懸命。歌舞伎を守るのも皆の力。

衣裳の着付けの人に「婆さん（私）だから、いい加減でいいよ。」（着付けの方）「私たちが笑われるから。」と念入りに。もったいないことです。

舞台で隣の広英様に「冥途の仲人は頼みますよ。」

—何と答えは「引き受けた。」でなく、（和尚様）「私の息子の嫁に。」と。此れには参った。ズッコケて後は自分の名前を云うのがやっとでした。広英和尚様に後で聞いたら、「若くて美しかったのであの様に云った。」と真面目な顔で。顔師、着付けの方々、此の人達のお蔭でした。

主人に写真を見せても誰か判りません。「美しい娘だ」との事。笑えます。

保存会の方々、今年の秋は楽しい一日を過ごす事が出来ました事、皆々様に感謝を致しつつ筆を止め

晴姿 おひねり下さる 友有りて

生きる喜び 又ひとしおに

東雲会 かずこ

東野歌舞伎に出演して

渡辺 正昭

本年八月に思わぬ出演の依頼を受けましたが、年を考えると今更とおもひ、お断りしようと思ひに出席した所、出演者が足りなくて踊る羽目になりました。

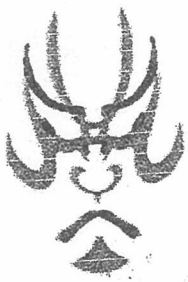
歌舞伎と言えは少年の頃（昭和二十三年、二十六年）に恵東座で青年団が踊るのを家族全員で観て割子の弁当を食べたものでした。

青年になり（昭和三十三年頃）、三回ほどの出演の機会に恵まれ、先代の津多七師匠に習いましたが、現在の様にテレビ、ビデオ等がありませんので、先輩に教わりながら、師匠を待ったものでした。ちなみに当時の青年団は、各分団ごとに一幕ずつ出るので、なかなか師匠に教わる機会が無く、先輩の方に殆ど教えていただいた様な記憶です。

以来四十年振りに踊る事になり、昔なつかしいやら不安やら、今の私に出来るのかどうなることかと心配でした。

台本をいただき、ビデオを見て練習をしましたが、思った事の半分も表現できなくて、情けなくなり何度もうめようかと思ひましたが、出演者の皆さんに迷惑がかかる事なので、私なりの表現でやるしかないと思ひ、先生の教えも宜しきを得て何とか間違えずに踊れた事は出演された皆さんのお蔭と感謝しております。

私には、大変な経験で、これからの人生に少しでも役に立てたらいいなと思ひて居ります。楽しい思い出となりました。



みんなでたのしい地域社会

赤尾 袈夫

いろんな人がいるから面白い。いろんな考え方があつてから勉強になる。

それらの人の言葉や行動が合わさつて形が出来、力になる。

上手下手、早い遅い、好き嫌いにとられすぎて自分の選択の道を閉ざしてしまつてゐることがある。別世界がひよんな事から自分の世界になる事があつて。

それこそひよんな事から東野歌舞伎の話があつて、「だんまり」場に出るチャンスを得た。

歌舞伎は深くは分らない、「だんまり」・などとは皆目分らない。

夜、東野小学校体育館の二回の練習に出た。

みなさんの「だんまり」の過去の舞台をビデオで見るのが練習その一、その二はステージに上がつて声を出すこと、流れを知ること、形を作ることだった。自分の役どころが何なのかも知らぬずうずうしさで、誰かにメモしてもらつた「梶原某」の顔を作つてもらつた。

舞台に立つた時間はわずかな刻、何とか役を果し終えたのか、みんなに撮つてもらつた写真が証明になつてゐる。

一日の発表のために多くの人々の力が注がれてゐることを実感した。

ちらしポスターの作製などの広報、役者やスタッフの手配取りまとめ、舞台装置の製作設営、バザーやビデオ撮影の根回しなどがあつての公演であつた。一つのことが仕上がるには多くの人たちの情熱と行動応援が欠かせないもの、みんな、たのしい社会のステージを作り出したものだ。私にとつての楽しい世界が広がつたと喜んでゐる。

むらのわだい

その一 蛍の里づくり

十二月七日、青少年育成会議、東雲会合同で蛍の里 定蓮寺川のヨシの刈り取り作業が行われました。

今年六月の蛍祭りの感動を来年も再現する為の、地道な作業です。

当日、子供たちには、千藤健逸さんに語り部をお願いして、今なぜこの作業をするのか、今ほたるはどんな生活をしているのか― など話し合いながら川に捨てられているアキ缶、ビニール類を拾い集めました。

そして、蛍の幼虫は三月頃までカワニナを食べて育っており、そのカワニナは水中のプランクトンや餌（キャベツ、白菜など）をたべてふえる。この食物連鎖を大きくするため、回り道であってもまず河川を汚さない、カワニナを育てる……事の大切さを学びました。

来年夏の蛍の乱舞を楽しむに、地域ぐるみで川を守り蛍の環境・保護に努めるイベントでした。

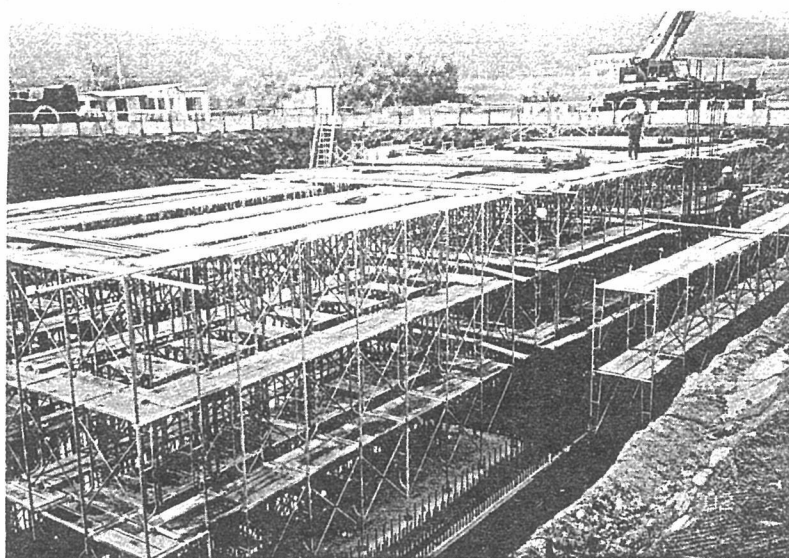


その二 農業集落排水事業

農業集落排水事業の内、管の埋設工事が各所で進められております。

埋設工事の完成後、各戸から集まって来る汚水の最終処理施設事業が現在屋下地内で進められております。

今年度は建物の基礎工であり、地表から五、六メートル、広さ約四百平方メートルを掘削し、コンクリートの基礎工が進められております。来年度は、その上部に建屋が建築される予定です。尚、管の埋設は全体の2/3が完成しました。



その三 すくすくクラブ

十二月十二日に少し早めのクリスマス会を行いました。

当日は武並町の紙芝居サークル「どんぐり」の紙芝居「おおむしのへんしん」「ねこのおりようり」を見せてもらいました。手づくりの大きな紙芝居や、楽しい音楽に自然と体が動きます。

次は、東中学校三年生のエブロンシアターによる「三匹のこぶた」の人形劇です。中学校の総合学習の一環としての実習で、ちよつぱり恥ずかしがりながらも一所懸命やってくれました。

一緒に見た幼稚園のとも組、みどり組のお兄さん、お姉さんも、大きな紙芝居と、かわいい人形に見とれ、お行儀良く見物できました。

最後は、白いおひげのサンタクロースさんの登場です。「ほんものだー」と少し緊張気味。でも大きな袋からプレゼントをもらおうと大喜び。握手してもらいました。サンタさんが帰ってしまうと、ため息が……

遠いところまで来ていただいた「どんぐり」のおばさんたち、東中のお姉さん、お兄さんありがとうございました。大きくなったら紙芝居屋さんになろうかなー。そしてサンタクロースさん。また来年も来てね。



その四 恵那市火葬場建設について

十一月 各戸に配布されたように、恵那市の新火葬場建設について、阿木川ダムコア山が最適地として建設同意につき説明され、今、振興会（自治連）を中心に「地元同意」について協議が重ねられていくところです。

ご承知のように、行政の施設には庁舎、体育、文化、福祉、診療所、学校、公園等の施設が有り、同じように生活関連施設といわれる、ごみ（廃棄物）処理、し尿処理、火葬場等一日も欠かせない重要な施設を必要とします。

このうち、ゴミ処理施設、し尿処理施設は新しく他地域に建設され、市民が等しく利用しているしかし、火葬場は築後二十九年（昭和四十八年完成）を経て、誰もが「早く何とか……」の気持ちであると思われます。

にもかかわらず、いわゆる「迷惑施設」といわれるゆえに建設地域に受け入れられ難く、今まで事業化が遅れているのも事実のようです。

今回（建設に向けての）仮同意を求められているこの施設（火葬場）の建設が東野地域にとつて環境面等でどんな影響を及ぼすのか、又どんな問題が生じるか検討され、東野として大所高所からの判断を示さねばならないようです。



おじゃまします

花つくり

公民館には多くの方々がお花を飾って下さり又、苗の提供をいただいております。

花は、公民館を利用いたたく年間1万3千名の目を楽しませてくれます。

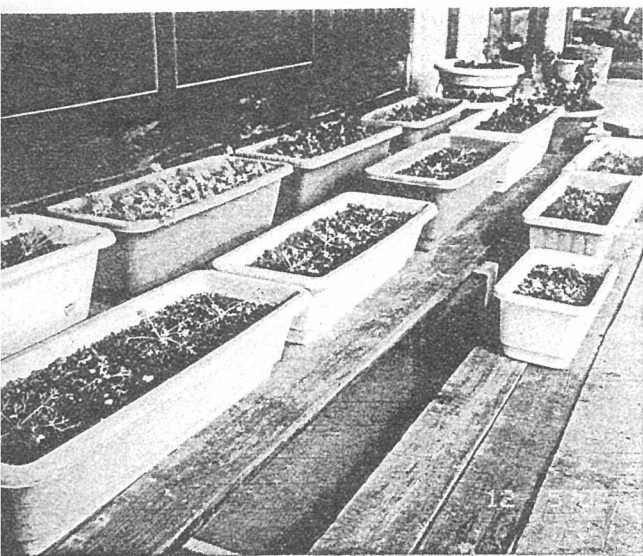
丹精込められた季節の花、珍しい新品種の花など……。

今回は、染戸の西尾邦弘さんを伺いました。

この時期、咲き終えた花の片付けやら、来春に備えての、山の落ち葉集めなどの作業中です。

「来年は、クッションマム（菊の種類）を増やして……」と意気込みです。

春を待ちきれずもう桜草、花ビシ草などが蕾みを付けて日向に並んでおりました。



水琴窟

水滴の余情を庭で楽しむ水琴窟。

江戸時代風流人の一種の遊びとして始まったもののようです。

しかし、同じ水音を楽しむ仕掛けでも、猪おどしや、笕（かけい）などのように形が見えず、どこにあるのか、余程でないと気付かれないものです。ここ伊藤良邦さんの水琴窟は、広い庭の玄関前で聞かれます。地表の水音と異なり地中での共鳴音はしばしその場を離れられなくなるような、音色を発しています。

東野にはその他二ヶ所あり、その一つは職人さんによる作で、周囲との調和の図られた水琴窟は、正に琴のような音を響かせ、その音の響きも遠くまで伝わり、楽しませてくれます。

他の一つは、素人の日曜大工ならぬ日曜○○の手作りで、音もポトン、ポトン……。これでも本人は、自慢のようです……。



十四年度

恵那市市民祭 入賞者(東野分)

高齢者作品展

絵画・写真の部

特別賞 渡辺 英子

俳句大会

入選 渡辺 とき

松虫草の風に師を恋い野麦恋ふ

短歌大会

佳作 岡本 祥子

黙々と草刈る人を演じ居る

地球劇場一人の芝居

美術展

彫塑・工芸の部

書道の部

写真の部

奨励賞 今野 孝美

奨励賞 渡辺 泰江

奨励賞 渡辺 忠明

入選 三宅 一嘉

入選 伊藤 幸江

入選 伊藤 武徳

入選 西尾 順夫

入選 若尾 義弘

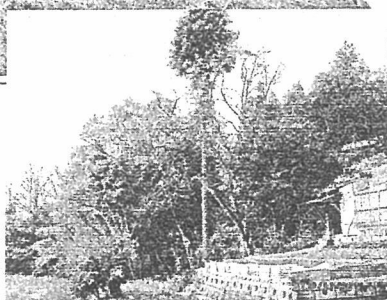
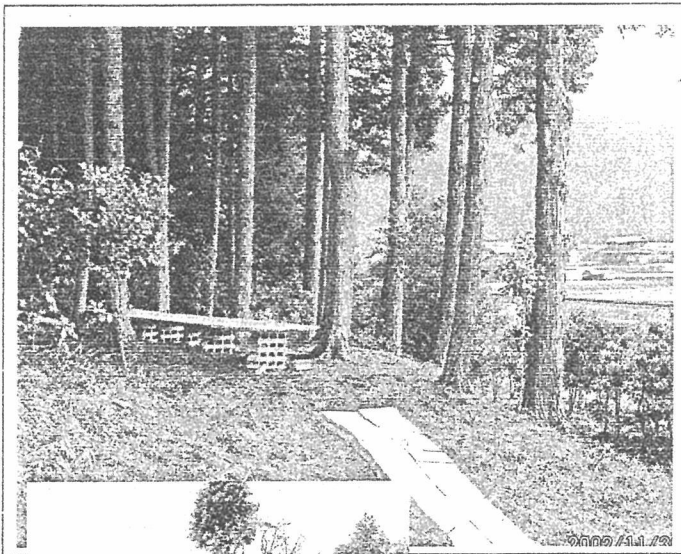
洋画の部



特別賞 渡辺英子さんの「あじさい」

かわら版こぶし

02/12/01 13号
東野こぶし会事務局
(長谷川 26-3833)



ベンチから見たしてこぶし公園です、花が咲いたら花見の宴には最高の場所ですよ。
(自画自賛)

公園の作り変えを始めました。先日、
会員の方達に集ってもらい、お寺さんに作り変えの安全祈願の為に祈りをあげて頂きその日に花見展望場所にベンチを移動させました。さすがに石の平板は重く参加者全員寒い中汗だくで馴れない作業に息も上り疲れました。
ベンチに座り眺める景色は思いのほか良く談笑場所には最高で散歩途中の癒しの場所に成る事でしょう。もう少しで完成しますよ

12月の奉仕作業は未定です、出来れば暖かい日を見てやろうと思っています、上組の森林組合さんから間伐材を寄付して頂きますので運搬と皮むきをしなくてはなりませんので、声を掛けましたら協力して下さいお願いします。尚1月はのんびりと正月を楽しむ為に作業はしませんが、気の早い水仙が咲き出します覗いて見て下さい結構綺麗ですよ。

こぶし会
こぶし会で発行される機関紙です。
二ヶ月に一回程発行され、活動の様子、季節の花の様子などが美しく写っており楽しい機関紙です。
公民館にも掲示してあります。

「恵東座」(えとうぎ)の話

今年も歌舞伎が公演された。

思えば東野の芝居といえは恵東座。あの建物で演じた人、見物席であの五段、十段と重ねられた弁当を食べた人。舞台設営に手伝った人。多くの人びとの思い出の恵東座。

残念ながらその姿を印す写真、書物は見当たらない。解体にあたって当時、人びとの関心も意外と薄れてしまっていたのかもしれない。

少ない資料と淡い記憶と知識でたどってみると、建てられたのは棟板から嘉永六年(一八五三年。間口十五間、(約二十七m)奥行き十八間(約三十二m)といわれることから約二百七十坪、現小学校体育館より五、六m程巾広い。

しかし、取り壊された跡地(八坂神社下、現集会所)を測ると東西三十五m、南北二十七mであり、四方の空間を考えるとやや無理か?

当時、村で一番の用材を使つたと言われたように梁(はり)は南北十数間の通しであり、大人二人でも恐らく抱えきれない大木であったと思ひ出される。また、その上部には小屋束(つか)が細かく組まれておりその姿は見事なものであった、そんな姿を見せるために天井が張られていなかったとも推測される。

昭和十三年屋根替(六百七十八円)、更に戦時中の軍需工場利用などでかなり改造されておりその後の姿は、私どもの記憶では、客席(平場)には巾二十五cm高さ二十五cmほどの渡り通路が設けられており、自分の席への行き来に使われ、また自治会ごとの席割にも利用された。

この「平場」の他両脇、二階に棧敷席があった。昭和年代、二十六年頃から恵東座での歌舞伎が再開された、その年寄付金が一戸あたり三十

円、三百円と自主的に寄付されたようである、(当時 日赤寄付三十円。下刈り賃三百円)

村芝居はおよそ十五才、二十七、八才の若者の集まり(青年団)が主催することになっており、一ヶ月ほど前から早夕食を終えた団員が舞台(恵東座)に集まり、練習をしつつ、おでんに使う竹串づくりなどそれぞれ進めていく。

師匠には、山岡の松本さん、大井の市川さんにお願ひしていた。開演の時期は十月の上旬で、芝居が終わると稲刈りが始まるようであった。

開演が近づくと自治会への寄付金依頼、桝席の抽選を行い、二日間の内、初日と翌日は席をかえ、外題の順序も変えて、なるべく公平となるよう努力が図られた。

また、舞台装置には精通されている方々への手伝いの依頼も大切な事項である。

さて当日、午後一時頃から幕が開く、十一時頃には満席、あちこちで昼の弁当が開けられる、十個、二十個と積み重ねられた芝居弁当、一年の内この日だけ使われるものであろう。

おかずは、里芋、さきげ、ソナ(ホウキタケ)、ちくわ、こんにゃく、いかの煮付けが多い。場内にはほこりが満ちているが誰も意に介さない。灯りも裸電球が数十個。

外題は進み夕食時間、やや長い休息、売店では青年団の味噌おでんが良く売れる、こんにゃく、ちくわである、また弁当が開けられる。

祝儀の張り紙が正面に下がる、だんだん継ぎ足され、金額に応じてB4用紙2枚であったり、時には4枚張り合わせの大きな文字……賑々しく大成功のようだ。

この恵東座では芝居ばかりではない、昭和二十五年ころから全国規模で農村演劇大会が行われ、その練習場でもあった、三十三年には恵那

市代表更に県代表となり全国青年団大会演劇の部に出場している、演題は「若い力」であった。

これは優れた指導者を得、芝居の盛んな土壌の積み重ねでなし得た成果と思われる。

その他、消防団による消防車購入資金調達の映画会も行われた。「丹下左膳」とか「鞍馬天狗」の時代である、入場券百五十円と記憶する。

こんな恵東座も昭和三十一年「管理が困難」ということで売却問題があがった、しかし当時の青年団など諸団体が存置に奔走された、その熱意に当時の管理者(振興会)も売却を解除され取り壊しはひとまず白紙となった。

昭和三十四年には現天皇のご成婚記念の幕が作られており、恵東座で使われていた。

歌舞伎は昭和四十一年頃まで続けられていたが、その後青年団も衰退、歌舞伎も行われず恵東座は使われることはなく、同時に床、屋根等の損傷も酷く危険で立ち入ることは無かった。

ただ四十五年に久し振りに東野で歌舞伎が行われたが、舞台は今ほなき旧小学校講堂である。

昭和四十七年振興会では「今なら買い手もあるが、その後になれば解体費を要する」という説明がなされ、解体止む無しに至った。

当時関わった方々の多くは今ほ故人となられ、存置運動に励まれた方々の記憶も薄れているようである、振り返って思うに当時の振興会(管理者)にとつて歴史の遺産と、壊れ行く現実の姿の間で辛い決断であった事と思われる。

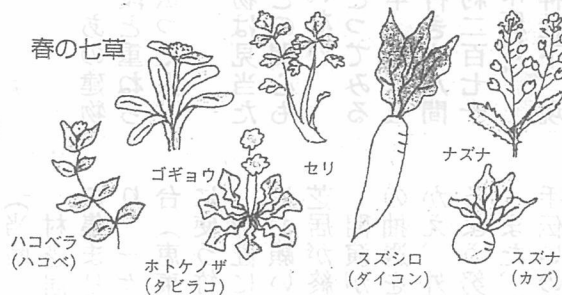
しかし、返すがえすも記録、資料が見当たらないのは残念である。

その後、平成三年渡辺さんらのお骨折りで保存会が設立、開演された、会場は体育館、あの弁当は見当たらない、引幕の「恵東座」の文字だけが当時を偲ぶ景色である (文責 千藤恵三)

休館日 (変更の場合あり)

1月 1日～3日・6日・14日
15日・20日・27日
2月 3日・10日・12日
17日・24日・
3月 3日・10日・17日
24日・25日・31日

七草粥に使われます



一月七日朝の七草粥
七草を刻むときの歌
★七草なすな唐土の鳥
が渡らぬ先にかき寄せ
かき寄せ
★なすな七草なすな
ごみようたびら 唐土
の鳥がまだ来ぬうちに
かっこめかっこめたん
ぼたんぼ
(家によりどちらかが歌
われるようです。)



編集後記

75号辛うじて年内発刊できました。
今回も多くの方に寄稿いただきました。
次回も「呼びかけ」「想い出」「感動」等々お待ちいた
しております。 私ごと
ですが、久しぶりに村芝居のお手伝いが縁で「恵東
座」の想い出を綴ってみました、間違いもあろうか
と思いますが、ご指摘いただければ幸いです。
新しく「おじゃまします」を設けました。
毎回どこかのお宅へ「おじゃまします」次回はどこ
なへ……自薦、他薦お知らせ下さい。
もう新しいカレンダーが届き、年内わずか、
いろいろ想いだされる年……又、年が来る。
皆様良いお年をお迎えください。

その1

◆年賀状展◆

1月10日(金)～31日(金)

珍しい賀状、工夫された賀状お貸し下さい。

その2

◆書き初め展(青少年育成会議)◆

1月18日(土)～31日(金)

表彰式 2月1日(土)午後1時

その3

◆青少年育成会議 講演会◆

1月19日(日)午後1時30分～

演題 「青少年の健全育成活動は

すべての大人達の責務である」

講師 恵那市社会教育委員長

青山貫禅氏

主催 東野青少年育成会議

協賛 東野小学校PTA

その4

◆ふうふ今だから…伊藤武徳、幸江さん写真展◆

1月25日(土)・26日(日)

文化センターで展示され好評でした。

さりげない風景、つい見過ごす花や虫。

“時” “心” によりこんなにも違う発見。

その5

◆我が家の珍品、奇品展◆

——長谷川多平さん「明知鉄道歴史資料」——他

1月25日(土)・26日(日)

御貸し下さい

皆さんの、宝物、古くから大切にしていたもの、
不思議なものなど——

その他 (主催者に確認下さい)

◆新春マラソン大会◆ 1月12日(日)

受付 9時30分

主催 東野体育協会

(事務局 光岡伸康 26-0892)

◆新春麻雀大会◆ 1月13日(月)

